

英国警察：ペドファイルは処罰しないで、リハビリ施設へ 送れ

警察本部長会議のサイモン・ベイリー巡査長発言

【訳者注】イギリスでは暴力犯罪が激増し、特にペドフィリアはあまりにも多くて、警察も手に負えなくなったという記事を、少し前に読んだ。この巡査部長の発言も、その本意は、逮捕も処罰もしきれないことに対する、悲鳴と取れるだろう。この異常さはどうして起こったのだろうか？ これについて言うべきこと、言わねばならない事はいくらでもある。そもそも「合意年齢」を12歳に下げよう、などという議論をする国家の下では、これくらい乱れるのは当たり前だろう。しかし、世界的に蔓延するこの異常さは、霊的な現象だと見当がつく。アイルランドでも、神父が、エクソシストの量産を求めて叫ばねばならなかった。霊的な異常という考えを嘲笑する、イルミナティに植え付けられ、これを固守している唯物論文化では、何の解決も見いだせないのは当たり前だ。我々の心は、良いものにも悪いものにも侵入されるということ、隙を見せれば、魂は乗っ取られるものだと自覚すること——それ以外に解決はないだろう。

Daniel Newton, www.neonnettle.com

May 31, 2018



警察本部長会議の Simon Bailey 巡査長は、自分の見解には論争の余地があることを知っている、と言った。

主導的な子供保護担当の警察官が、子供ポルノを見るペドファイルたちは、投獄するのではなく、リハビリをすべきであると発言した。

警察本部長会議のサイモン・ベイリー巡査長は、イギリスの警察力は、もはや「膨大な」ペドフィリア犯罪の増加に耐えられなくなっていると言った。

<http://www.neonnettle.com/tags/pedophile>

数値を見れば、子供虐待の報告の巨大な件数が、ここ3年で80%も増加していることがわかる。

内務省によれば：「子供虐待の映像を見ることは、恐ろしい犯罪であり、そのようなものとして処罰すべきである。」

歴史的な子供虐待を調査する「消火栓作戦」Operation Hydrant のチーフであるベイリー巡査長は、彼の見解が、論争的になりうることはわかっていると言った。

BBC の報告によれば、彼は、BBC ラジオ4の Today 番組で、毎月、約400人が、わいせつな映像を見たとして、国家犯罪局に関連して警察に逮捕されていると話した。

「子どもたちに会い、彼らを強姦し、最も恐ろしい性的虐待を彼らに加える目的で、ネット上で子供を利用しようとしている男たちは、間違いなく何万人 (tens of thousands) といます。」

「これこそ我々が、全力を集中しなければならない最大の課題です。彼らは、本当に重大な脅威になっている者たちです。」

ネット上で子供虐待の映像を見た犯罪者は、性犯罪者リストに加え、警告を与えて、リハビリ (テーション) の処置をしながら、共同体内部で管理すべきだ、と彼は言った。

リハビリに付される者たちは、「ますます効果を示している」と彼は言い、法廷のシステムを用いない方が「問題は早く片付く」と言った。

加えてこう言った、「映像が見られるたびに、犠牲者がまたしても犠牲になっている。これほど恐ろしいことはない。しかし、我々は関係者全体を管理することができるべきだ。」

ある内務省報道官は、政府は、2,000万ポンドを国家犯罪局に付託し、専門家チームが、オ

ンライン子供セックス利用に取り組んでいる、と言った。

「犯罪者を厳しい法の裁きの下へ連れていくことは、もちろん重要なのだが、我々はまた、何よりもまず、犯罪を防止することに努力しなければならない」と、彼らはつけ加えた。

警察本部長会議は、禁固刑は、公的な保護、正義、および抑止措置という観点から、重要な役目を果たしていることは認めた。

しかし、ある報道官はこう付け加えた――「我々はこの状況下では、最後まで逮捕を続けることはできません。もし、もっと子供を保護せよということであれば、我々は防止とリハビリを、優先しなければなりません。」

犯罪者の扱いが「甘いものでない」ことを知っているのも、この方面で働く人々は、すでに能力の限界を訴える。

Lisa Thornhill は、すでに子供を性的に傷つけ、あるいはその恐れのある者たちを預かる、Lucy Faithfull 基金施設のシニアの係員をしている。

そこでは、人々の振舞いを矯正するための「非裁判的助力」を提供している――10 週間グループ・プログラムや、そのウェブサイト、「ストップ・イット・ナウ」内密ヘルプライン（悩み相談）など。

このヘルプラインへの相談件数は限界を超え、月に、約 800 まででは対応可能だが、約 2,500 は対応できないでいる。

この組織は、性犯罪者のある者は、もっぱら虐待のために、子供へのアクセスを求めている事実「甘くはない」ものの、「それを求める者を助ける道義的責任はある」と、彼女は言った。

「こういう犯罪を犯すほとんどの人々は、自分が悪いことをしているという、なんらかの自覚をもっています。私たちは、こういった人たちの勇気と責任ある部分に訴えて、私たちに接触し、これをやめ、永久にやめさせることを願っています。」

ベイリー巡査長のこの発言が出たのは、「イングランドおよびウェールズにおける子供性虐待独立調査」が、月曜日に、満員の公聴会を伴って行われたときであり、このとき、外国へ送られてケアを受けている子供たちの申し立てが、陳述され調査された。

この広い門戸をもつ調査によって、地方官憲、宗教組織、武装部隊、また公的・私的な諸組織、それに衆目を浴びる人々が、子供虐待にどう向き合うかを見極められるだろう。

——以上